

東京福祉大学

2025年度 一般選抜2期 2科目型（2月5日）

選択科目 試験問題

（制限時間120分で各自選択した2科目を受験）

「現代の国語・言語文化」	・・・・・・・・	P.1～P.4
「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」	・・・	P.5～P.7
「数学Ⅰ・A」	・・・・・・・・	P.8～P.9

あなたの受験票に記載されている科目で受験すること。記載されている科目以外で受験しても無効になります。

※試験開始の合図があるまで、開いてはいけません。
※この問題用紙は試験終了後、持ち帰ってください。

受 験 番 号

氏 名

2025年度 一般選抜2期 2科目型（2月5日）

現代の国語・言語文化

※問題は次のページからです。

【問題】次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

パーソナライゼーション*は、フェイスブック以外にも情報の流れをコントロールしている。ヤフーニュースなどのウェブサイトからニューヨーク・タイムズ紙が作ったニュースリーダー、ニュース・ドット・ミー (News.me) まで、いずれも、我々の興味関心に合わせた構成となるように作られている。その影響を受け、我々は、ユーチューブなどの動画サイトでどの動画を見るのか、どのブログ記事を読むのかを決める。だから電子メールを受けとるのか、出会い系サイトでどういう相手と巡りあうのか、ロコミサイトでどのレストランが推奨されるのか……いずれも、パーソナライゼーションの影響を受けている。それこそ、だれがだれとデートするのかだけでなく、どこに行つてどういう話をするのかにさえパーソナライゼーションは影響を与えられる。広告を仕切っていたアルゴリズムが人生を仕切るようになりつつあるのだ。

新しいインターネットの中核をなす基本コードはとてもシンプルだ。フィルターをインターネットにしかけ、あなたが好んでいるらしいもの——あなたが実際にしたことやあなたのような人が好きなこと——を観察し、それをもとに推測する。これがいわゆる予測エンジンで、あなたがどういう人でなにをしようとしているのか、また、次になにを望んでいるのかを常に推測し、推測のまちがいを修正して精度を高めてゆく。このようなエンジンに囲まれると、我々はひとりずつ、自分だけの情報宇宙に包まれることになる。わたしはこれをフィルターバブルと呼ぶが、その登場により、我々がアイデアや情報とソウグウする形は根底から変化した。^①

もちろん、我々は昔から、自分の興味関心や仕事とのかかわりが深いメディアを重視し、その他を無視する傾向にあった。しかしフィルターバブルの登場により、次のように、いままでなかった3種類の問題に直面するようになった。

ア、ひとりずつ孤立しているという問題がある。ケーブルテレビの専門チャンネルでゴルフなどごく狭い範囲を取り扱うものを見る場合でも、自分と同じ価値観や考え方を持つ人がほかにも見ている。これに対してバブルには自分しかない。情報の共有が体験の共有を生む時代において、フィルターバブルは我々を引き裂く遠心力となる。

イ、フィルターバブルは見えないという問題がある。保守系や革新系のニュースの場合、ほとんどの人は、政治的に偏向しているとわかったうえで見ている。これに対してグーグルはビミョウだ。^② あなたをどういう人だと思っているのか教えてくれないし、提示する結果がどうしてそうになっているのかも教えてくれない。自分に対する想定が正しいのかまちがっているのかもわからない。それどころか、自分に対する想定があることにも気づかない可能性がある。B P *を検索したとき投資関連の情報が提示された友人は、株の取引をしているわけでもないのにどうしてそうなったのかわからないと言う。情報のフィルタリングがされているサイトを選んでいるのだから、フィルターバブルを通して届く情報は偏向のない客観的眞実だと考えるのが普通だろう。ところがそうではない。それどころか、フィルターバブルの内側から見たのでは、その情報がどれほど偏向しているのかまずわからないというのが現実である。

ウ、フィルターバブルは、そこにはいることを我々が選んだわけではないという問題がある。フォックスニュース*を見る、ネイション誌*を読むなどの場合、^③ どういうフィルターを通して世界を見るのか、我々は自ら選んでいる。能動的な行為なのだ。イロメガネ^③をかけるようなもので、自分の意識をどう変えようと編集者が考えているのか、ある程度は推測できる。これに対してパーソナライズされたフィルターの場合、自ら選択することがない。向こうが勝手にきてしまう。しかも、フィルターはウェブサイトに利益をもたらすために使われているわけで、今後は、避けたくても避けにくくなる一方だろう。

④ エ、パーソナライズドフィルターが強い魅力を持つものには理由がある。我々は圧倒的な情報のホンリユウに直面している。毎日追加されるブログ記事は90万件、つぶやきは5000万件、フェイスブックのステータスアップデートは6000万件、送信される電子メールは2100億通にのぼる。エリック・シュミットによると、人類の誕生から2003年まで、我々がおこなってきたコミュニケーションをすべて記録すると50億ギガバイトほどになるという。それが、いまはわずか2日で同じ量のデータが生みだされる。

(中略)

オ、つい、パーソナライズされたフィルターの助けを借りたくなる。パーソナライズドフィルターを使えば、知るべき情報、見るべきもの、聞くべきことをみつけやすくなるはずだからだ。(中略)どこまでも続くミュージックビデオの山から価値のあるモノをみつけやすくなるはずだからだ。オンラインDVDレンタルサービスのネットフリックス(Netflix)なら14万本もの在庫から自分に合った映画をみつけることができる。iTunesのジーニアス機能なら大好きなバンドの新曲を教えてくれるので聞きのがす心配がない。

パーソナライゼーションを突きつめると、あらゆる面で個人に合わせてカスタマイズした世界が生まれると言われる。自分が好む人々、物、アイデアだけに囲まれた世界だ。居心地はいいだろう。リアリティ番組についての情報(あるいは、銃の乱用といったもつと怖い話)など聞きたくないと思えば聞かずにすむ。逆に、女優のリース・ウィザースプーンについてはすべてを聞きたいと思えば聞くことができる。料理、ガジェット、あるいは、海外の話題に関する記事をクリックしないであれば、そういう話題は視界から消えてゆく。⑤ タイクツすることなどない。いやな思いをすることもない。自分の興味関心や願望を完全に反映したメディアに囲まれているのだから。

これはとても魅力的な世界だ。太陽などすべてが自分を中心にまわる天動説の世界に戻れるのだから。ただし、対価を払わなければならない。あらゆるものをパーソナライズすると、**インターネットの本来的な魅力**が減ってしまうのだ。

*パーソナライゼーション……顧客ごとに最適化された情報やサポートを提供すること。

*BP……イギリスの国際石油資本の社名であるほか、様々な言葉の略語として使われる。

*フォックスニュース……アメリカの保守的なニュース専門放送局。

*ネイション誌……アメリカの進歩的な雑誌。

出典…イーライ・パリサー 著 井口耕二訳『フィルターバブル インターネットが隠していること』

早川書房 二〇一六年(一部改変)

問一 本文中の傍線①～⑤の片仮名を漢字に直しなさい。

- ① ソウグウ ② ビミョウ ③ イロメガネ ④ ホンリユウ ⑤ タイクツ

問二 本文中の空欄

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

 に入る言葉の組み合わせが最も適切であるものを次の①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① | アもちろん | イまず | ウだから | エ次に | オ最後に |
| ② | ア次に | イだから | ウまず | エ最後に | オもちろん |
| ③ | アまず | イもちろん | ウ次に | エだから | オ最後に |
| ④ | アだから | イ最後に | ウもちろん | エまず | オ次に |
| ⑤ | アまず | イ次に | ウ最後に | エもちろん | オだから |

問三 本文中の二重傍線部に「直面する」とありますが、「面」が用いられている表現①～⑤の適切な意味を下のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|---------|--------------------------|
| ① 直面する | ア 自分を情けなく感じて恥じ入る気持ちを表す言葉 |
| ② 矢面に立つ | イ 遠慮したり気後れしたりすることなく |
| ③ 赤面の至り | ウ 非難や質問などを集中的に受ける立場に立つこと |
| ④ 臆面もなく | エ 本性を隠して表に出さないこと |
| ⑤ 仮面を被る | オ 何か問題や困難などに真正面から向き合うこと |

問四 次の文章①～⑤を読み、本文の内容に合致するものに○を、合致しないものに×をつけなさい。

- ① フィルターバブルは、自分の興味関心のある情報だけに囲まれていることから考えがとても整理しやすい。
- ② 新しいインターネットの中核をなすものに、いわゆる「予測エンジン」がある。
- ③ 情報の共有が体験の共有を生む時代にあつて、フィルターバブルは、強い求心力を持って好影響を与える。
- ④ パーソナライゼーションは、自分の興味関心に合わせたもので居心地はいい。
- ⑤ フィルターバブルとは、インターネットからの情報が自分の好きなものや興味のあるものに限られてしまう状態のことを言う

問五 本文中の太字部分「インターネットの本来的な魅力」ということについて、あなたはどうか考えますか。本文の内容と自分自身の経験を踏まえて四〇〇字から六〇〇字で述べなさい。

2025年度 一般選抜2期 2科目型（2月5日）

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

※問題は次のページからです。

1 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい（固有名詞はそのまま使用してよい）。

Some Americans have been setting their own “no-buy” rules in an attempt to reduce wasteful spending and save money. Creating no-buy rules themselves can be easy. People simply make a list of non-essential things they plan not to buy for a specific period of time. The idea has caught attention on social media, with people and groups sharing progress on their goals. But keeping such rules can be difficult, especially for extended periods of time.

Whether it is beauty products, ordering takeout food or buying unnecessary low-cost items at the store, experts suggest knowing your weaknesses so you can make realistic plans. Mia Westrap is a Ph.D. student, who decided to establish a no-buy promise. But before starting, she took a close look at what she spent money on during the previous few months. Through that process, Westrap realized that unnecessary food and drinks were her big weakness. “I figured out that I was spending thousands of dollars on just carbonated drinks,” she said.

Experts say one of the fun parts of no-buy rules is that there are no set rules. Individuals get to choose what to include and what not to. Anea Wadsworth is a 22-year-old living in California. She used to love spending hours looking at clothes and interesting knickknacks at some shops. But when she moved back home after finishing college, she realized how many things she had built up over the years. “When I have those decluttering moments and I look through all my stuff, I was finding things that I bought and spent a lot of money on and then never ended up wearing,” Wadsworth said. To keep her rules, she chose not to buy new clothing and to center most spending only on experiences involving loved ones. Wadsworth also set her rules to be on a month-to-month basis. Experts say it can be a big help for people to write down their rules to help remember and keep them.

Taking a break before buying also helps. When Wadsworth feels a strong desire to get something she sees on social media or at a store, she writes it down instead of immediately buying the item. At the end of each month, she then goes over the list and decides what, if anything, is worth buying. Between pop-up offers and influencers praising new products, social media can be a trigger for unnecessary shopping, said Courtney Alev, a financial adviser. If someone feels they are spending too much because of long periods spent on a computer or a device, Alev says they should take a break

from any services providing an urge to buy things.

出典 Bryan Lynn. “Set ‘No-buy’ Rules to Save Money, Cut Waste” *VOA Learning English*
6 June 2024（一部改変）

<注>

Ph.D. : 博士課程の	carbonated : 炭酸の
knickknacks : 雑貨	build up : 溜める
declutter : 片付ける	loved one : 最愛の人
a month-to-month : 1 か月毎	
pop-up : ポップアップ（コンピュータ画面で最前面に現れる）	
trigger : きっかけ	

問題

- 問1 下線部①はどのようなことを指しているのか、日本語で具体的に述べなさい。
- 問2 下線部②はどのようなことを指しているのか、日本語で具体的に述べなさい。
- 問3 下線部③を日本語に訳しなさい。
- 問4 下線部④はどのようなことを言っているのか、日本語で具体的に述べなさい。
- 問5 下線部⑤を日本語に訳しなさい。

2 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい（固有名詞はそのまま使用してよい）。

The sun is at its hottest; the African sky is unending and cruel. Even the white men with cameras, busily taking photographs of the usual fighting over the food, are now getting ready to leave. They pack away their cameras, jump into their cars, and drive quickly away to cool, modern hotels in a city miles away. They are photojournalists.

One of them, sun-burned and hot, dressed in a shirt and jeans, kneels down on the dusty ground to take some photographs of a girl before he leaves. The girl with thin cheeks and tired eyes caught the photographer's eye. Her arms and legs are as thin as sticks; she is only skin and bone. She was in the middle of a group of boys, fighting just as strongly as they were, when the food trucks arrived. But she was pushed down, and the boys stepped all over her, and when she could move again, the bags of rice were all gone. She stayed there, red-eyed, moving her fingers slowly over the dusty ground.

The journalist takes his last photo, returns to America with his bag full of films. One of his photographs of the girl sells and is placed on the front cover of a news magazine. "You've caught the face of hunger in Africa," the news editor tells him. He wants to tell the editor that this photograph is just one face, in one village, in a country full of hungry faces. But he does not say it. The photograph is good for him. More people admire his work and want to buy his photographs for their magazines and newspapers.

The photograph is in most news stores by the end of the month. People look at the face of the African girl, and quickly turn away to enjoy the rest of their shopping trip. But the girl's picture stays in their minds.

A teenager has just finished looking at the clothes in *Vogue*, an expensive fashion magazine. She sees the photograph under the heading STARVING AFRICA. Her parents are from Africa. She herself was born and schooled in America, watching American TV and American films. She is uncomfortable with photographs like these. She remembers her classmates in school, who joke about starving Africans. She isn't African in that kind of way, but she isn't truly American either.

A Nigerian model is in the latest copy of *Vogue*, dressed in blue, and thin, so thin. The teenager feels the fat at the top of her legs. She wants to be thin like the model. She wants to wear jeans that are like a second skin. She wants a photograph of herself with cool, unsmiling eyes like the Nigerian model. She is careful about what she eats,

and if she eats too much, she puts her finger down her throat to make herself sick. Why does our world have people who starve, and people who decide to starve themselves? She stares at the girl in the photograph, does not think about the dry dusty hungry land behind her, and admires her cheek bones.

出典 Jennifer Bassett, ed. *Stories from the Heart*. Oxford: Oxford University Press, 2018
(一部改変)

<注>

Nigerian : ナイジェリア人の

問題

問 1 下線部①を日本語に訳しなさい。

問 2 下線部②の身体的特徴はどのようなものか、日本語で具体的に述べなさい。

問 3 下線部③はどのようなことか、日本語で具体的に述べなさい。

問 4 下線部④を日本語に訳しなさい。

2025年度 一般選抜2期 2科目型（2月5日）

数学Ⅰ・A

※問題は次のページです。

注意 1 : 問題は全部で 3 題, 解答用紙は 3 枚ある。問題 1 の解答は **No. 1**, 問題 2 の解答は **No. 2**, 問題 3 の解答は **No. 3** の解答用紙に記入すること。

注意 2 : 解答にあたっては, 最終的な答えだけでなく, その詳しい説明と計算過程についても必ず「解答欄」に書くこと。

注意 3 : 作図を要する問題の解答にあたっては, 定規, コンパス, 分度器等の道具を使用しないこと。

注意 4 : 円周率を用いる場合には π を用い, 3.14 などの近似値に置き換えないこと。

問題 1

x, y が実数のとき, $x^2 + 5y^2 - 4xy - 8y + 46$ の最小値及びそのときの x と y の値を求めよ。

問題 2

$\sin \theta + \cos \theta = \frac{1}{3}$ のとき, 次の値を求めよ。

(1) $\sin \theta \cos \theta$

(2) $\sin^3 \theta + \cos^3 \theta$

(3) $\sin^4 \theta + \cos^4 \theta$

問題 3

50 円, 10 円, 1 円の 3 種類の硬貨を使って, 合計を 100 円とするときの場合の数を求めよ。ただし, 硬貨の枚数に制限はなく, また 3 種類全て使わなくてもよいこととする。